

市町村保健活動推進のための 取り組み

狭山市保健センター
保健指導担当課長
有原 一江

狭山市保健センターの現任教育経過と契機

1. 平成元年まで。牧歌的時代 時の流れに身を任せ、貴女次第。
娘1人に婿7人。初めての新人「保健師は、本当は若い？」
2. 平成10年度まで。保健師12名中3年未満3人で、残りは小姑状態
それでも時は流れ、仕事は進む。
3. 平成10年度から 保健師他課へ行く。中堅トラバーク
カルチャーショックと連携の意識差。意識革命の理解
4. 平成13年度定着率大幅ダウン
トレーナートレーニングは、はかない夢。伝承性は何処？

平成13年度からの暗中模索

継続したこと 業務担当制と地区分担制 16万市だから可能
月1回カンファレンス、事例検討会、センター会議
地域ケア会議、児童福祉課との協議

次に計画したこと「形」を **保健師連絡会**

新規事業！これを契機に、やってみよう。すこやか訪問員事業
3課にまたがる事業、組織育成。難題山積、意識の覚醒

それから、**プロジェクトチーム**。 見直し・立案・協議・報告
いつまで、続くか、この混迷。情報先取り、読み込み、判断、意見具申

保健師の今 **保健センター17名**

経験年数 10年以上3人、5年以上9人、4年1人、3年1人、2年1人、1年2人

何からすべきか?! Learning by doing

鍋料理、なんでもありの相互啓発方法

チーム 健康管理システム更新チーム
次世代育成行動計画策定チーム
狭山市すこやか訪問事業推進チーム
介護予防事業推進チーム
健康教育・健康相談チーム

事業を通して実践

平成13年度の虐待死亡事件から、学ぶ。

喉もと過ぎれば熱さを忘れる。

厚い行政縦割り、現実は容易に変えられない。 立場の理解から

責任転嫁は止めよう 意識の覚醒 「知っている」「わかっている」

「できる」へ、もう少し進んで日常的に考えてできる まで。

新規事業 虐待予防ローラー作戦、チャンス！

ポジティブに 課題解決へのスタートとしよう

第1歩 グループで課題認識と共有、役割分担

すこやか訪問事業のスタート

PLAN DO CHECK ACTION

すこやか訪問事業 単年度ひもつき・要成果、次年度補助0でも継続事業

「地域力」「連携」「資質の向上」……キーワード、どうにクリアする？

本格稼動までは予算なしの準備3ヶ月、ここで何が出来る？ 必須事項は？

福祉課・児童福祉課(乳幼児情報センター)・保健センター 課長への説明会議

主目標;事業の理解と参画、そして未受診者情報の集中・一元化

主任児童委員との共働:何故? 根拠は? 説明と理解 協力要請

求められたものは、

企画・計画能力 説明・調整能力 交渉・折衝能力 運営能力
グループ構成員として 責任感 協調性 理解力 効率性

1期 準備期 関係機関説明 計画・立案 関係機関説明 合意形成
システム・資料作成・マニュアル作成・事前研修準備と実施・補正予算

2期 始動期 事業開始 修正 フィードバック 中間研修
主任児童委員との月1回の2時間の情報交換会での積み重ね
相互理解と調整、共働とは。

3期 ステップアップ期 共働、行政主導から「地域力」
ワーキンググループと掘り下げた協議

大いなる課題 事業を進める中で

1. 一人一人のマネジメント能力を高める（関係機関が増える中で）

一人 1困難事例に徹底的に付き合ってみよう。

アセスメント 課題分析 マネジメントの方向性と実際 担当者会議
モニタリング 会議報告 ←

2. 連携するということは（求められることが増える中で）

前提は、断らない。断るのは、明確な理由が示せる場合。

納得のいく説明とは、「保健師だとわかる」は通じない。

行動記録シート(学童)

日時	予兆(頻発順)	問題行動(頻発順)	スタッフのとった対応	本人の反応	落ち着いた後の行動	おちつくまでの所要時間	エピソード等
H14	おやつ前に机の下に隠れる	「道路に出て車にひかれて死んでやる」と道路に出る	抱きしめる・抱っこする	30分～1時間すると落ち着く	けろっとしている	30分～1時間	M学校(普通学級)でも荒れているとの情報あり
	お昼少し前	窓から飛び降りようとする	放っておく・知らない振りをする	さらにやる・「あの人は僕を見捨てた」と言う	友達と遊びだす	長いと2～3時間又はお迎えまで	母親が迎えにくると落ち着く
	友達・上級生にからかわれる	「死ぬ、死ぬ」「世界の皆がおまえなんか死ねと思っている」	飛び出すのを無理に連れ戻す	さらにやろうとする・暴れる	遅れておやつ等を食べ始める		保育時間が長いとトラブルが多い
	昼寝の時間	自分の手を噛む等自傷行為あり	言い聞かせる	暴言を言う・落ち着くのに時間がかかる・蒸し返すこともある			友達とかかわるとトラブルで孤立化しやすい
	勉強の時間	先生を蹴飛ばす	話を聞いてやる	時間がかかるが気持ちが落ち着いてくる			四月は頻発。徐々に落ち着く。
	後ろの子に追い越される	仕返しをしようとする	その場を離れる・個室に連れて行く	時間がかかるが気持ちが落ち着いてくる			
	ツベルクリン接種後	椅子を投げる	カメラを向ける	静かになる・嫌がる			
	帽子の金具が気になる	弁当箱の破片を首にあて、「死んでやる」					
フォークを振り回す							

連携、この大いなる 課題

1. チャンスは、そうはない。たまたまできた、でも身近で**成功体験共有**



メンバーは、学習し、次のステップへ。

2. 増えないマンパワーと増える仕事、連携が加速させる実態



隠れたリーダー発掘 グループ内相互啓発

担当者 グループ内検討 リーダー報告 全体協議又は、課長報告
実施しているだけ=何も考えていないこと と意識しよう。

保健師業務担当

		成人保健 R 保健師	母子保健 R 歯科衛生士	教育・相談 R 管理栄養士
I地区	A			
	B		母子サブ	
	地区リーダー			
S地区	D			教育サブ
	E			
	地区リーダー			
O地区	G			
	H	成人サブ		
	地区リーダー			
K地区	J			
	地区リーダー			
	L			

他課との連携の場

- 子育て支援課との月1回の検討会
- 高齢介護課との隔月検討会
- 高齢介護課との介護予防事業
アセスメント モニタリング 振り返り
- 月2回の幼児フォロー教室
(障害者福祉課・療育施設・子育て支援課・児童館)

保健師定例会

- 最近の検討課題
高齡介護課の介護予防事業と
保健センターの機能回復訓練事業

何が見えたか

目的・課題は同じ、どう連携するか

今、これから

- 他での経験者が多い職場だからできた？
- 今は、誰に聞いても、教えられる環境
- これからは、「評価」が課題
果たして、機能しているか。
成果はどのようにみるのか。
遅滞ない事業継続が成果ではない。
県への期待 大所高所から